

第6学年保健教育指導案

指導者 6年担任
養護教諭 支援加配 古賀

1. 題材 エイズについて考えよう！ ～身体の抵抗力とエイズ～
2. 題材設定の理由

○ (エイズとは)

エイズは、1981年に確認された病気であり、英語の **Acquired Immunodeficiency Syndrome** (後天性免疫不全症候群) の頭文字をとって、**AIDS** と命名された。その病原体は、1983年に発見されたエイズウイルス (**HIV: Human Immunodeficiency Virus**, ヒト免疫不全ウイルス) である。HIVは感染した人のヘルパーT細胞の中で増殖し、ヘルパーT細胞を破壊していく。その結果、細胞性免疫不全状態となり、感染抵抗力が低下し、日和見感染症、日和見悪性腫瘍、神経障害などを発症した病態がエイズである。HIV感染症とは、HIVに感染してエイズになるまでの全期間を含めての呼び名であり、HIVに感染し、身体の防御機能(免疫)が低下し、いろいろな症状が現れるようになることをエイズ発病という。しかし近年治療が飛躍的に進歩し薬の服用で、エイズが発病しても5年、10年、15年と生きながらえることができるようになり、エイズも慢性疾患の一つになった。

○ (エイズの現状と指導の意義)

世界では、毎日、1万4000人が、あらたにHIVに感染しているといわれている。これは、ほぼ6秒に一人の割合でHIVに感染していることになる。そのうち、6000人が15歳から24歳の若者で、2000人が15歳未満の子どもである。エイズが原因で孤児になるエイズ孤児は、アフリカのサハラ砂漠より南の地域を中心に世界で1000万人以上に達している。感染者の多くは、社会サービスの不足や貧困の中で、必要な情報を知ることもできず、医者にもかかれず、苦しい生活のなかで生きている。エイズが慢性疾患になったといっても、それは薬を購入できて服用できるごく一部の患者に限られている。治療を受けることができない多くの人たちにとって発病は、死刑宣告と同じなのである。しかも、新たに感染する人の約半分が女性と子どもで、子どもの大部分は、母子感染と報告されている。

日本国内でも、HIV感染者の数は、1996年以降、増加を続け、2008年は過去最高の報告数(1126件)になっている。(報告では2012年末現在、国内では14,706人がHIVに感染している)しかし、感染しても無症状の期間が長く、検査を受けないと感染しているかどうかはわからず、その間、感染者は感染源となる可能性が非常に高い。この1126という数字も表にあらわれた数であり、うらに隠れているHIV感染者の数は相当に多いはずである。また、最近発見される感染者は、特定の限られたものではなく、年齢別に見ても30歳代(2011年)が最も多くなっている。エイズは、正しい知識を持ち、適切な注意を払い、適確な行動をとることによって感染を回避できる病気である。このような意味からも、学校において、若い世代のうちにエイズに関する指導を行い、エイズの疾病概念、感染経路、予防法を身につけさせることがきわめて重要なことである。

3. 本時

- (1) 日時 2013年1月20日(月) 5校時
- (2) 会場 多目的室
- (3) ねらい

- 身体には病気と闘う抵抗力(免疫機能)があることを知る。
- エイズについての正しい知識を身に付けるとともに、HIV感染者の立場になってエイズを考えることが、偏見や差別をなくすことにつながっていくことに気づく。
- 中途半端な知識(特にマイナスイメージのもの)は、偏見や差別を生み出すおそれがあることを知る。

(3) 準備

- *エイズ教育セット(アーニ出版;北沢 杏子さん監修) *エイズ学習プリント
- *ビデオ「エイズと闘った少年、ライアン・ホワイトの記録」(編集済み)

4. 展開

学 習 の な が れ	指導上の留意点および資料
<p>1.うつる病気、うつらない病気</p> <p>○インフルエンザが流行っているけど、今までにどんな病気にかかったことがあるかな?</p> <p>C「はしか、風邪、みずぼうそう・・・」</p> <p>○そのほかに、どんな病気を知っているかな?</p> <p>C「ガン、糖尿病、日本脳炎・・・」</p> <p>○これらの病気の中には、うつる病気とうつらない病気があるようだけど、分けられるかな?</p> <p>○上手に分けられたね。 今日は、病気がうつると身体の中でどんなことが起こるのか、そしてそれがエイズだとどうなるのか、学習します。</p>	<p>指導上の留意点および資料</p>  <p>*時間があれば、子どもたちに分けさせる。</p>

2. 病原体と抵抗力

○ それでは、問題です。インフルエンザが流行っていますが、今あなたが健康だとすると、インフルエンザの菌やそのほかの病気のもとになる菌は、どうなっているのでしょうか。次の3つから選んでください。

C 「健康なんだから、身体の中には入ってないと思うな。」

C 「菌は、空気中にあるよね。」

C 「体の中にも入っていると思うよ。」

○ インフルエンザのウイルスのような病気のもとには、見えないけど、空気中にもたくさんいるそうだよ。そして、身体の中にも入ってくるのです。

○ それではなぜ病気にならないのかな。

C 「身体に病気と闘う力があるからかな。」

○ そうです。病気と闘う力のことを「抵抗力」といいます。もっと難しい言葉で「免疫」ともいいます。

○ それでは、この抵抗力について「はしか」と「エイズ」を例にして考えてみましょう。

3. 抵抗力と白血球

○ 抵抗力ってなんだろう？どこに入っているのかな？

C 「どこだろう？」

○ ヒントは、血液の中です。

C 「白血球かな？」

○ そうです。血管の中には、赤血球、白血球、血小板などが一方通行で流れています。

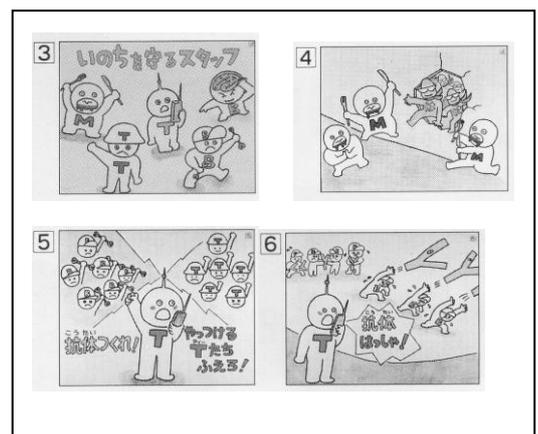
○ このなかの白血球が私たちの身体を守ってくれているのです。白血球には色々な種類がありますが、そのなかのおもな5人のスタッフを紹介しましょう。

○ それでは、このスタッフがどのように身体を守ってくれるのか紙芝居を見ましょう。

- ① 空気中にも身体の中にも病気のもとになる菌はいない。
- ② 空気中に病気のもとになる菌はいるが、身体の中には入っていない。
- ③ 体の中に入ってはいるが、健康である。

* 赤血球は、酸素を運び、二酸化炭素を集め、肺から出す。血小板は、血液を固める働きをする。

- ① くいしんぼうのマクロファージ
- ② 命令を出す司令官のT細胞
- ③ 目印の抗体をつくるB細胞
- ④ 病原体をやっつけるT細胞
- ⑤ 病原体を記憶するB細胞



* 「はしか」のウイルスを例にして、白血球がどのようにして身体を守っているのか、免疫のシステムを紙芝居で理解する。

* 紙芝居①～⑨を見る。

--	--

4. エイズと白血球

- ウイルスなどの病気のもとが身体に入ってきたら、白血球がどのようにして闘うのか分かりましたか。
- それでは、エイズウイルスが身体の中に入ってきたらどうなるのでしょうか。紙芝居のつづきを見てみましょう。

- このように「命令するT細胞」がいなくなってしまうと、ほかの白血球たちはどうしていいのかわからなくなってしまいます。こうなってくるとみんなの身体はどうなるのでしょうか？

C「抵抗力が弱くなってしまふよ。」

C「すぐに病気になってしまふよ。」

- そうです。一つの病気だけでなく、色々な病気になってしまふのです。これが、エイズなのです。

5. エイズの感染経路を予想しよう

- エイズはどんなときに人にうつるのでしょう？うつると思うものには[○]を、うつらないと思うものには[X]を、かいてください。

- [○・X]をつけた人は、もし友だちがエイズにかかっているとしたらどうしますか？また、エイズの友だちが転校してきたらどうしますか？プリントに書いてください。

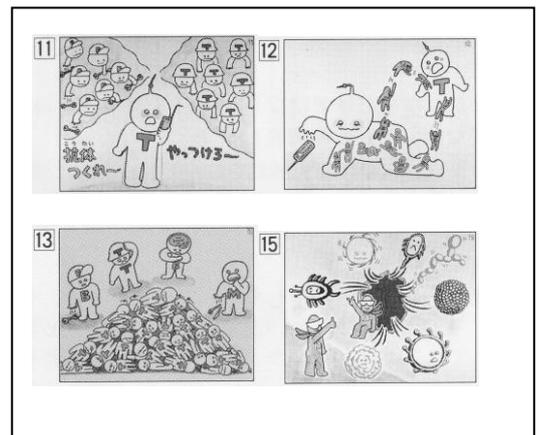
6. エイズと闘った少年(ライアン・ホワイト)

- どうやってエイズがうつるのか、その答えを言う前に「エイズと闘った少年」のビデオを見てもらいます。彼は、13歳のときにエイズにかかりました。みんなとあまり変わらない年齢だよね。

- 彼の名前は、ライアン・ホワイトといいます。ライアンは、「血友病」という病気でした。その血友病の薬である「血液製剤」に含まれていた「エイズ(HI

- * エイズウイルスが白血球の中で一番大事な「命令を出すT細胞」にとりつき、命令を出させないようにすること。その結果、白血球の働きが弱まり、身体の病気に対する抵抗力がなくなってしまうことを理解させる。

- * 紙芝居⑩～⑮を見る。



い)ウイルス」によって、エイズにかかってしまったのです。

- ライアン一家は、ココモという街に住んでいました。ライアンがエイズにかかっていると知ったココモの街の人たちや友だちはどうするでしょうか？

C「みんなでライアンを助けてあげるのかな。」

C「友だちがいなくなるかも。」

7. ココモの街で

- それではビデオを見ましょう。

- さあ、どうでした。今の気持ちを簡単にプリントに書いてください。

C「ひどすぎる」

C「学校にこれなくするなんてかわいそうだ」

- ライアンの家族は、ココモから1時間ぐらいのシセロという街に引っ越します。ライアンは、ハミルトン・ハイツ高校という学校に転校しました。さて、新しい街、新しい学校は、ライアンたちをどのように迎えてくれるのでしょうか。

C「ココモとっしょじゃないかな。」

C「あんなにひどくないと思うよ。」

8. ハミルトン・ハイツ高校では

- 新しい学校は、ライアンをあたたかく迎えてくれました。どうしてでしょう。

C「やさしい人が多かったから。」

C「エイズの勉強をしていたからかなあ。」

血友病

遺伝性の病気で一生治らない。ちょっとした打撲や傷を受けても、すぐに出血し、なかなか止まらなくなってしまう。出血したら輸血が必要だが、血液製剤を補充することによって止血することができるようになった。

- * 血友病のライアンが、血液製剤によってHIVウイルスに感染したこと。それを知ったココモの街の人たちによるホワイト一家に対する差別的な行為。裁判には勝利するが、転校に追い込まれるところまでをビデオで見る。

ライアン・ホワイトの事件は、エイズについての知識の普及の遅れからくる、偏見や差別について人々が考えるきっかけとなり、エイズ教育を学校に取り入れさせる契機となった。ライアン自身も学校をまわって、自らの体験や同じ病気で悩む人々の苦しみを語り続けた。

1990年4月

18歳で死去

○ ハミルトン・ハイツ高校では、エイズ教育をしっかりとしていたそうです。今日の授業もエイズの学習ですが、まださっきの「うつる、うつらない」の問題が残っています。ここで終わってしまうと、ココモの人たちと同じように「エイズという病気の怖さ」だけが心に残ってしまうよね。

○ その心が、エイズに対する偏見や差別を生み出したんだね。中途半端な知識は、偏見や差別を生み出すこともあることを忘れないでね。

9. エイズの感染の仕方

○ 18の例があったけど、迷っている人もいましたね。一つ一つうつるか、うつらないか手を挙げてください。一応、多いほうにはっていくことにします。理由もいえる人は言ってくださいね。

○ 答えを言う前に、ライアンはどうやってエイズウイルスに感染したのか、思い出してください。エイズウイルスはどこの含まれていたのでしょうか。

C「血液の中だ。」

○ そうです。感染した人の血液の中にいるのです。それから、精液（精子を守る液）、ちつの分泌液（ちつを守る液）、さらに母乳にも少し含まれています。

- このなかで、エイズに感染するのは、
- ① 麻薬や覚せい剤の注射器のまわしうち
 - ② 性交
 - ③ 感染している母親から胎児に
 - ④ 母親の母乳
- この4つだけです。

**中途半端な知識は、
偏見や差別を生み出すことがある。**
ことをしっかりと子どもたちに伝える。

うつらない

    唾液のHIVは微量。バケツ3杯分の唾液を一度に交換しないと感染しないといわれている。

   軽い抱擁、軽いキス、握手などで触れてもうつらない。健康な皮ふは、細菌やウイルスをうけつけない。

   お風呂やプールでは大量の水でうすまるため感染力がなくなる。HIVは空気、熱、石けん、洗剤などで感染力がなくなる。洗濯機ではうつらない。

  感染した人をさした蚊がすぐ感染していない人を刺したと仮定した場合、一千万匹が刺さないとうつらない。動物のエイズウイルスはヒトのそれとちがうものなのでうつらない。

  歯科、針灸用の針などは完全消毒してあるのでうつらない。感染した人の血液がついた場合は、水や石けん、アルコールなどで洗えばよい。

うつる

 覚醒剤などのまわしうち。感染者が一人でもいると、注射筒や針に残った血液で感染する可能性がある。

 無防備な性交（コンドームなしの性交）。オーラルセックスも注意。

 母子感染には胎盤をとおして胎児に感染する胎盤感染、出産時の出血による産道感染、母乳は微量だが繰り返し飲むため、母乳感染もある。感染率は15～30%。

 ほにゆう

○ 日本の場合、お母さんが感染しているとわかったら、お医者さんが母乳を赤ちゃんに飲ませないようにしますが、食べ物が少ない国では、仕方がないから飲ませます。そうすると、赤ちゃんにエイズがうつってしまうことがあります。

○ このようにみんなの日常生活のなかで、いっしょに遊んだり勉強したりしてもうつることはありません。また、感染している人の血液が皮ふについてもすぐに洗い流せば心配ありません。ただ、エイズに限らず、「自分の血液を他の人にさわらせない」ことが大事なことです。

○ けがをしたら、自分で水洗いをして、保健室に行き、先生から手当てをしてもらってください。

10. ライアン君の生き方に学ぶ

○ ライアン君のハミルトン・ハイツ高校での生活はどうだったのでしょうか。ライアン君の表情やまわりの子どもたちの様子などに気をつけながら、ビデオのつづきを見ましょう。

○ ライアン君の様子はどうでしたか。最後に今日の学習の感想を発表してください。

○ ライアン君は、1990年に18歳の若さでなくなりました。でも、エイズ(HIV)ウイルスに感染したら必ず死んでしまうということではないのです。身体の中にエイズウイルスがいても病気にならない人もたくさんいるのです。また、色々な薬も開発されています。エイズウイルスの活動を弱めたり、病気になるのを遅らせたりして長く生きている人もたくさんいます。

* HIVウイルスはとても感染力が弱いウイルスであり、日常生活の中では、まず感染することはないということを理解させる。

* 「他人の血はさわらない」ではなく、「自分の血をさわらせない」という意識を持たせる。

* ライアン君の表情やまわりの子どもたちの様子に気をつけさせる。

* ライアン君の生き方を補足する。

* 「エイズ=死」という意識を子どもたちに持たせないようにする。HIVウイルスとなかよく生きている人もたくさんいることを知らせる。